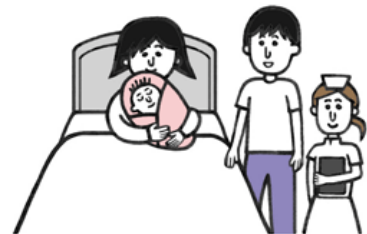


つながる にほんご

～ かながわで ともに くらす ～





はじめに



多文化共生社会がうたわれる以前から、神奈川県内にはボランティアのみなさんによる日本語教室があり、地域に暮らす外国人の日本語支援をしてこられました。外国から来た人が日本で生活するために日本語が必要なことは言うまでもありません。

とはいえ、一般的な総合教科書通りに日本語を教えれば、万事うまくいくのでしょうか。これまでに多くの方が日本語教室に通い、一定期間学習して、教室を離れていきました。そして今、その方たちは、以前からそこに暮らしている人たちに溶け込んで暮らしておられるのでしょうか。「あそこの〇〇人」ではなく、「ご近所の**さん」として互いに挨拶を交わす関係でしょうか。もちろんすっかり地域になじまれた方もおられます。でも残念なことに、多くの方にとっては相変わらず、国や言葉や文化が「違う」ことによる特別扱い一ちょっと寂しい状態が続いているように感じられます。

多文化共生の地域づくりのために日本語教室の活動を通じて言葉以外にも何かできることがあるのではないかと考えていた折しも、「神奈川の日本語教育をもっと充実させましょう」という声が「県民提案」として神奈川県に届きました。不自由な日本語で子どもを育てる家族への心配に端を発した、ある若い方からのものでした。それがこの教材をつくることになったきっかけです。

多文化共生社会を目指すなら、外国から来た人も日本人も同じように、今暮らしている地域を理解し、好きになり、地域のこれからを一緒に考えられる仲間になることが大切ではないでしょうか。私たちは日本語教室の活動の幅をほんの少し広げて、学習者も支援者もともに「地域」を知り、さらに教室の外の人とつながっていけるような活動ができる、神奈川らしい教材をつくりたいと思いました。そこで、県内各地の日本語教室ボランティアさんたちの協力を得て教材づくりに取り組みました。それぞれの地域を話題にしながら支援者と学習者が対話を重ね、時に教室の外へ出ていき、ともに暮らす場所として地域を見直せるように工夫しました。そこからおのずと教室外の人とのつながりが生まれてくるはずです。

教室で今使っておられるテキストの合間に、20分、30分、あるいはもっと長い時間でも、状況にあわせて必要なところだけ使えるように工夫しました。「日本語教育の充実」というにはささやかなテキストですが、皆さんのお役に立つことを願っております。

2013年2月

神奈川県立国際言語文化アカデミア



もくじ



はじめに..... 1

きょうざい しょうかい つか かた
教材の紹介と使い方..... 5

1. ちいき 地域

1話 わ せかい なか 世界の 中で..... 9

2話 わ わたし かながわ 私たちの 神奈川..... 12

3話 わ ◆よりみち◆ かながわく いず ◆よりみち◆ 神奈川クイズ..... 13

4話 わ わたし まち 私の 町..... 14

かつどう
活動のてびき..... 17

2. こうつう 交通

1話 わ なん き 何で 来ますか..... 19

2話 わ じてんしゃる ー る 自転車ルール..... 20

3話 わ ひょうしき..... 23

4話 わ ◆よりみち◆ じてんしゃま な ー ◆よりみち◆ 自転車マナー..... 24

5話 わ わたし ばす 私と バス..... 25

6話 わ ばす の バスに 乗りましょう..... 26

7話 わ ばすてい バス停..... 30

8話	◆よりみち◆	電車 <small>でんしゃ</small> が動 <small>うご</small> かない.....	32
----	--------	--	----

活動 <small>かつどう</small> のてびき	35
-----------------------------------	----

3. 健康けんこう

1話		生活習慣 <small>せいかつしゅうかん</small>	39
----	--	-------------------------------------	----

2話		民間療法 <small>みんかんりょうほう</small>	42
----	--	-------------------------------------	----

3話		病院 <small>びょういん</small>	43
----	--	-------------------------------	----

4話	◆よりみち◆	健康診断 <small>けんこうしんだん</small>	47
----	--------	------------------------------------	----

5話	◆よりみち◆	がん検診 <small>けんしん</small>	50
----	--------	--------------------------------	----

活動 <small>かつどう</small> のてびき	51
-----------------------------------	----

4. 子育てこそだ

1話		どんな子ども	53
----	--	--------------	----

2話		母子手帳 <small>ぼしてちょう</small>	54
----	--	----------------------------------	----

3話		子どものようす ①保育園 <small>ほいくえん</small> (幼稚園 <small>ようちえん</small>) の先生 <small>せんせい</small> と	57
----	--	---	----

4話		子どものようす ②保健師 <small>ほけんし</small> さんと	59
----	--	--	----

5話		ママ友 <small>ままとも</small>	62
----	--	-------------------------------	----

6話	◆よりみち◆	連絡帳 <small>れんらくちょう</small>	65
----	--------	----------------------------------	----

7話		学校行事 <small>がっこうぎょうじ</small>	68
----	--	------------------------------------	----

8話		担任 <small>たんじん</small> の先生 <small>せんせい</small> に連絡 <small>れんらく</small> する	70
----	--	---	----

わ 9話	◆よりみち◆	びーていーえー PTA	72
かつどう 活動	のてびき		73
5. ぼうさい 防災			
わ 1話	さいがい 災害		75
わ 2話	わたし 私の	ぼうさい 防災	77
わ 3話	じしん 地震だ!		79
わ 4話	ひなん 避難		81
わ 5話	たす 助けあい		83
わ 6話	◆よりみち◆	ぼうさいせんたー 防災センター	85
わ 7話	◆よりみち◆	ぼうさいくんれん 防災訓練	86
かつどう 活動	のてびき		87
おわりに			89

『つながる にほんご -かながわで とともに くらす-』

～教材の紹介と使い方～

おしゃべり系のテキストって
何を勉強したか、
わかんないんだよね…

地域のことは
外国語版「暮らしのガイド」
を渡せばいいんじゃない？

人にあれこれ
聞くのは
好きじゃないな。

文法積み上げる方が
能率的だと思うけど。



時間配分が
難しいのよ。

そもそも話せないから
来てるんだろ。

こんなことをお考えでしたら、どうぞ次をお読みください。



こういう「おしゃべり系」のテキストには抵抗のある方も多いでしょう。おしゃべりだけですと、学習者を遊ばせてしまったような気持ちになりがちですし、文法積み上げ式で設計されたテキストを使うと、教えたことが目に見えやすいものです。それは支援者にとって活動の励みになります。

でも、待ってください。日本で暮らし始めた外国から来た方にとって、言葉の勉強は一生続きます。ゴールはありません。この長い間の言葉の学習は誰がどうやってサポートできるのでしょうか。それは、その時々傍らにいる日本語を母語とする人にほかなりません。本当に必要なときに日本語を学んだり、生活情報を入手したりすることができる力は、その人が毎日暮らす地域に根づき、周囲の人とつながっているかどうにかかっています。この『つながる にほんご-かながわで とともに くらす-』で提唱したいことは、そのきっかけづくりとしての日本語教室活動なのです。

そして教室活動で「何を勉強したか」を決めるのは学習者です。新しい単語や文型かもしれませんが、地域情報や日本人の考え方もかもしれません。何であれ、その人なりの学びを大事にしたいものです。

情報は外国語版の生活案内に頼るのが簡単そうに思われます。でも必要なことは何でもそこに書いてあるのでしょうか。人生の各段階で人は実に多様な情報が必要となります。しかも人によって状況は多様です。こういったニーズに対応できるのは信頼で結ばれた人間関係だけです。支援者は異文化の学びを経験できるでしょうし、学習者から尋ねられて初めて気づく地域の問題もあるに違いありません。

学習者は日本語に不自由だからこそ教室に来ているというご意見はごもっともです。おしゃべりが弾まないこともあります。でも、学習者が本当に話したいことであれば、その日は話せなくても、何とか自分で言葉を見つけて、次の教室の日に話してくれるということが私たちの経験では珍しくありません。

また、勉強のためとはいえ、人にあれこれ尋ねることに抵抗がある方には、尋ねる前に、まずご自分のことから簡単にお話しになることをお勧めします。学習者にとっては、そのほうが返事もしやすく、話題も広がります。逆に学習者から支援者への質問があれば大成功です。

「そうはいつでも時間配分が難しいのよ」とおっしゃる方もあるでしょう。私たちは基本的に時間配分にはこだわらなくてよいと思っています。それよりは、終わった後の話の量を振り返ってください。学習者の発話が多ければうまくいった証拠です。時間不足の場合も、学習者が話している限り何の問題もありません。普段のおしゃべりでもその場で完結しないことはいくらかあるのではないのでしょうか。

どうぞいつものテキストと併用してください。こちらに全面移行をする必要はありません。行事に合わせた「イベント使い」や、いつもの勉強が一段落したときの「すきま使い」でも結構です。予定した勉強が早く終わってその日の時間が余るときには「つまみ食い」もできます。どこからどれだけ使ってくださいしてもOKです。

「つながる にほんご -かながわで とともに くらす-」をどうぞよろしく申し上げます。

1. 理念—何よりも大切にしましたことです。

「かながわで ともに くらす」

日本語学習者も支援者も、同じ地域に暮らす住民として、互いを尊重しあいながら、ともに生きていくことを学び、より豊かに生きていく力を育むための教材です。日本語の習得についても語句や文法の正確さより、現実に関心を達成する能力(Can-do)に近づくことを優先します。

2. 具体的にはこんな教材であることを目指しました。

- ① 双方向コミュニケーション（相手を尊重し、傾聴しあう姿勢）を重視する。
- ② 社会で豊かに「生きていく力」（社会資源の理解や活用など）につなげる。
- ③ 対話を通じて支援者も学習者もそれぞれの課題を発見し、一緒に解決を探る。
- ④ 教室の外への働きかけやつながり（社会参加）を生み出す。

3. 生活の場面を重視しました。

場面の選択がひとりよがりになったり、他の教材と重複する場面が多くなったりしないよう、また同時に神奈川県各地域の特性が生かせるよう配慮しました。

取り上げた場面は、文化庁による『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案について』（2010）中の「生活上の行為の事例」を参考にし、『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案 教材例集』（2012）では扱われていない場面です。本書と『 同 教材例集』を合わせて使うと生活の場面が広がります。

*文化庁 HP『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案、教材例集について』
http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/index.html

4. 支援者と日本語学習者（日本語初級前半程度／ひらがなが読める）のグループで使います。

ペアよりも4、5人の方が楽しく活動できます。日頃、ペア活動が基本の教室などでは、2、3ペアを1グループにして活動してみましよう。

来日から間がなく、日本での生活経験がほとんどない人には向きません。その場合、生活経験のある学習者にサポートしてもらうなどの工夫が必要です。

5. 学習者と一緒に用いる「テーマ」の部分と、各テーマに付した支援者用の「活動のてびき」で構成されています。

（1）テーマ

「1. 地域」、「2. 交通」、「3. 健康」、「4. 子育て」、「5. 防災」の5つのテーマがあります。それぞれに4～9話の話題があり、各話、20分～90分を想定しています。ただし、扱い方やグループの人数、興味などにより、活動にかかる時間は異なります。

「◆よりみち◆」とつけた話題は、その話題でめざす何かを達成する能力（Can-do）を必要とする学習者が限られ、語彙などに若干の特殊性があるものです。テーマにある話題のすべてを扱う必要はありません。教材はグループ内のおしゃべりを活性化させ、対話へと導くためのものです。脱線オーライです。

(2) 活動のてびき (各テーマ末)

どんな活動？

そのテーマではどんな活動ができるか、が書いてあります。

活動を通して身につけられること (Can-do)

ここでの活動がきっかけになって身につけていくような、何かを達成する能力 (Can-do) です。ここに掲げてある能力を教室活動だけで完全に獲得するのは容易ではありません。初級学習者の場合はまずその第一歩とお考えください。

教材構成と活動準備

▶活動のための準備

教室が始まる前に、支援者が思い出したり、実際に準備したりしておくといよいことです。ちょっとした個人的なエピソードなどを思い出しておくとい楽しい活動につながります。「ちょっとした」が肝心です。面白くても話が複雑で長いものはお勧めできません。

▶どうぐ箱

それがあると話題がわかりやすくなったり、おしゃべりが深まったりする便利なものをあげました。日本語でうまくやり取りができない間は、さまざまな小道具 (実物、写真、絵など) がとても役に立ちます。

活動のヒント ①きょうしつ ②まちあるき

何をしようか困ったときのためのヒントです。教室の内と外の二つにわけて、それぞれ「きょうしつ」、「まちあるき」として紹介しました。支援者と連れ立って教室の外へ出かけると学びの場が広がります。特記されていない場合でも、支援者と学習者が一緒に参加したり行動したりすることが基本です。

おたすけ文型

各話の本文中に点線の枠で囲んで示してあります。それぞれの話題を扱うにあたり、おもに学習者が答えるときに役立つ簡単な文型をあげました。学習者がどう答えたらよいか、言い方に困るようなときに紹介してください。適切な状況の中で文型を使うことが文型の自然な定着に有効です。 [N：名詞、A：い形容詞、NA：な形容詞、V：動詞]

お役立ち情報

学習者のために知っているとい役に立つ施設やHP等の案内です。

6. その他

- ▶ 『つながる にほんご -かながわで とともに くらす-』は連続学習を想定していません。どこからはじめても、一部分だけ使用しても、さまざまな学びを生む活動につながります。
- ▶ ふりがなにはひらがなを使い、カタカナ、アルファベットにもふりました。